

地域のかお シリーズ111

不易と流行

宮崎市旭町児童館
館長 河野一朗

4月から旭町児童館の館長として働かせていただいています。令和2年度まで広瀬小学校で勤務していましたので、児童館・児童クラブの子どもたちのお兄さん、お姉さんを教えていたことになります。

広瀬小学校時代に、児童館に数回訪れたことがあります。児童館に勤めて分かった新しい発見がありました。

「不易と流行」という言葉をご存知でしょうか。「不易と流行」は、変化しないものと変化するものを表す言葉であり、「不易」が変化しないもの、「流行」が変化するものを指し、物事の基礎や本質であり、いつまでも変化しないもののの中に新しい変化を取り入れるといった意味合いがあるそうです。これは、俳人である松尾芭蕉の、俳諧はいかいに対する考え方として知られています。

児童館には100種類以上のおもちゃがありますが、その中には、古くから日本人が遊んできたビー玉やけん玉、こまなどのおもちゃや、将棋や囲碁、ボードゲームなど、私たちが幼いころに遊んでいたものもたくさんあります。

新しいものとしては、バインブレードやウノ、パズルゲームなどがあり、利用している子どもたちは古くからあるおもちゃと新しいおもちゃを使って、楽しく遊んでいます。

遊戯室には卓球台が2台あり、4時から館庭でのドッジボールが大人気です。そこには異学年での交流や歓喜の声が聞こえます。公園で大声を出せなくなっている今の時代、児童館は子どもたちの憩いの場となっているのではないのでしょうか。



また、児童館には四季折々の行事が残っています。「こいのぼりミニ運動会」「七夕飾り作り」「クリスマスお楽しみ会」「わいわい豆まき」「うきうきひなまつり」など、昔は小学校でも行われていた行事が多くあり、季節ごとの面影を残しています。児童館の行事に参加していない子どもたちも、是非来年度は参加してほしいと、計画を練っているところです。

児童館では、スマホなどのSNS利用は禁止になっています。このきまりも子どもたちの健全育成に役立っているものと考えます。

よいことばかりではなく、荒い言葉遣い・相手に中指を立てる行為などが気になっています。そのような場面でも適切な指導に心がけています。学校や家庭ではいかがでしょうか。決して児童館だけの行動ではないと考えます。

児童館は地域に暮らす全ての子どもたちが、主体的に幸福に成長していけるように支援する児童福祉施設です。現在の旭町児童館は「子どもたちに居場所を提供できているか」「遊びを通して子どもの成長を促しているか」「子どもの意見を尊重し、主体的な活動が展開されているか」「学校や地域、保護者との連携は十分か」「子どもの健康安全を守る手立ては十分か」「配慮を必要とする子どもへの対応は十分か」「地域の健全育成の環境づくりや活動支援はなされているか」等のミッションをどれだけ達成できているか、皆様からのご意見やご感想をいただきながら評価改善を図っていきたいと考えています。忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせください。

旭町児童館では、いつまでも変化しないもののの中に、新しい変化を取り入れることも考えていきながら、職員一同精一杯支援して参りたいと思います。この一年間のご支援ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。